

地域とともに、地域のために。

SCに求められる社会的責任を一步ずつ果たしていきます。



イオンモール株式会社
代表取締役社長

村=教行

(むらかみ のりゆき)

CSR徹底へのチャレンジ

私たちは、1992年に日本で初めて青森県柏村(現つがる市)にSC(ショッピングセンター)をオープンした当初より、地域社会に貢献していくことが、SCに課せられた社会的使命であると認識し、地元の自治体や地域にお住まいのみなさまとともに、地域のためのSCの開発と運営に取り組んでまいりました。

SCオープン前後の航空写真を比べてみると、どのSCも、周囲に住宅やお店が増えていることがわかります。SCの出店が投資を誘発し、地域の活性化に貢献させていただいております。

2007年11月から改正「まちづくり三法」が施行されますが、当社のSCは地域活性化の起爆剤として当社をお選びいただき、ご誘致いただいたものばかりです。

これからも、イオンモールは地域にとって本当に必要とされ、ご誘致いただける企業となりますよう、CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を自覚し、地域の発展やよりよい街づくりへさらに一步踏み出し、大いなるチャレンジをしてまいります。

地域とのきずなを深める

出店にあたっては、専門店の3分の1を地元の企業とすることを目標にしています。2006年度オープンした高崎SCでは、群馬県内企業の出店が41店舗にのびました。イオンモールへの出店を機に、全国展開を果たした企業も登場しています。地域の産業振興に寄与するため、地産地消も推進しています。

また、ひとたびSCが開店すれば、地元で約2000人規模の雇用も生まれます。商業は人間産業ですから、工場を誘致する以上の雇用吸収力があり、大きな経済効果が生まれるのです。

経済効果だけではありません。私たちは何より、地域のみなさまにお喜びいただけるSCになりたいと考えています。

インターネットが発達した時代、モノを買うだけなら、ネットショッピングで事足ります。SCに求められるのは、モノではなく、ショッピングの楽しさや親切的な接客、おいしい食事、健康、感動する映画、イベントなどの「体験」や「感動」、「交流」にほかなりません。

SCがそんな非日常の楽しさや出会いを提供できる場でありたいと、独自のテナントミックスでモールを構成しています。また、イオンホールや駐車



場、モール内のセンターコートなどで、地域の伝統行事やお祭り、文化活動の発表、募金、献血活動などに積極的に取り組んできました。年々活動の規模が広がっております。SCが身近になり、地域コミュニティの場としてお客さまにご利用いただくことは、今後ますます重要になってまいります。

専門店従業員は 環境保全に取り組む「同志」

地球温暖化が叫ばれる今日、環境保全に積極的に取り組んでいくことは、企業に課せられた基本的な責任です。

緑豊かなSCとなるよう、地域のみなさまと、SCの周囲にふるさとの木を植樹してきました。2007年2月現在、植樹数はイオンモール全体で約100万本にのぼります。

ごみの17品目の分別やリサイクル資材の活用にも早くから取り組んできました。省エネルギーについては、一昨年から取り組んできた原単位分析のめどが立ち、SC運営に活かしていこうと、チャレンジ的な削減目標を策定しました。二酸化炭素についても、2012年に2004年度比40%の削減をめざし、戦略的に取り組んでいきます。開発

から運営管理まで、SCの環境保全モデルを築き上げたいと考えています。

環境活動を進めるにあたっては、専門店従業員の協力が欠かせません。全員に環境教育を行っていますが、専門店の従業員の方々がSCでの環境教育の経験を他の店で広めてくださることも少なくありません。ディベロッパという立場から言えば、専門店はお客さまでしょう。しかし私は、専門店のみなさまを「同志」だと思っています。私も、お掃除をする人も、専門店の販売員もみな、SCで働く同じ仲間。環境配慮をこころがけようという輪をどんどん大きくしていくことが、私どもの大切な役割のひとつだと考えています。

徹底したお客さま視点を

企業力を高め、グローバルな競争に勝ち残ることは、お客さまをはじめとするステークホルダーに価値をご提案し続けるうえで不可欠です。私たちはこの8月に「ダイヤモンドシティ」と合併し、新生イオンモールとして新しく生まれ変わった気持ちで、世界トップ10入りを目標に、企業基盤を固め、国内はもとより、アジアのお客さますべてにご満足いただくSCづくりを進めて



毎月11日の「イオンデー」は、本社周辺の清掃に参加

まいります。2008年には、北京出店も計画しています。

世界を視野に入れてはいますが、私たちがめざすのは、あくまでも地域で愛される店づくり。変化の激しい現代にあっても、ずっとご支持いただけるSCを築き上げなくてはなりません。

変化の兆しを捉え、SCのあり方や戦略を見つめ直していく指針となるのが「お客さまの声」です。私はその1枚1枚に目を通しています。SCに関わる全従業員がお客さまにご満足いただくよう、日々の業務を「地道に・愚直に・徹底的に」やりぬくことが、何よりも重要だと考えています。

今後とも、従業員をはじめ、パートナー企業とともに、「お客さま第一」を貫き、地域とともに生きるSC像を追求していきます。

